

既存排水機場等の効果 淀川水系宇治川〔針ノ木排水機場〕

○針ノ木排水機場では、平成29年10月22日14時～23日0時にかけて、沿川での浸水被害発生に備えて、ポンプを操作・運転し、**総排水量4.3万m³の内水**を排出。

■針ノ木排水機場の位置・全景



■岡本川の水位低減効果

今回のポンプの稼働により、**総排水量4.3万m³の内水**を排出し、岡本川の水位が**約2.3m低下**、浸水面積が**約10ha**、家屋浸水が**約100戸減少**。



■針ノ木排水機場の役割

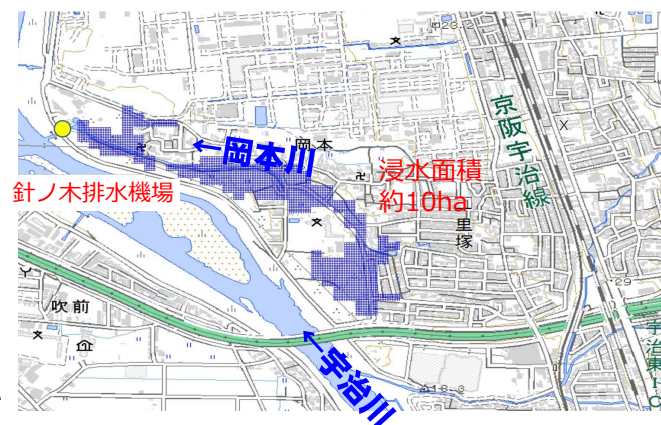
岡本川の内水被害が頻発していたことから内水排除の目的で樋門及びポンプ場が設置されていました。しかし、浸水被害が解消されなかったため、樋門とポンプ場の見直しが求められるようになりました。

針ノ木排水機場は、昭和51年度に**3.0m³/s**のポンプが設置され稼働を開始しました。

昭和51年度から稼働している針ノ木排水機場は、完成からすでに**40年以上経過**しています。

針ノ木排水機場は、宇治川洪水の岡本川への逆流を防止するとともに、岡本川の流水を宇治川へ排水することで、宇治市内の沿川での浸水被害を軽減する役割を担っています。

ポンプが無かった場合の浸水被害



排水量 **4.3万m³** 25mプール **119杯分**



※速報値であり、今後変わる場合があります。